今月のことば　　令和４年（2022）９月　＜No.193＞

お念仏申す意味

今月は、お念仏申す意味について考えてみたいと思います。
ヒントは、親鸞聖人が８０歳の頃、お弟子さんに宛てて書かれた手紙の一節です。

『親鸞聖人御消息 25通』　より

自分が浄土に往生できるかどうか不安な人は、まず自らの浄土往生についてよくお聞きになり、お念仏申すのがよいでしょう。自らの往生は間違いないと思う人は、仏のご恩を思って**感謝の心でお念仏申し、世の中が安穏であるようにと、仏法が広まるようにと思われるのがよいでしょう。**　＜住職意訳＞

まずは、「自分自身が阿弥陀仏に救われ、浄土往生する身であること」を聞き、「阿弥陀仏はただ一つ、私にお念仏申しながら人生を歩んでほしいと願っていること」を聞くのが大切だと言われています。では、次の**「世の中が安穏であるようにと思ってお念仏する」**とは、どういう意味でしょうか？
注意したいのは、お念仏が「世の中を安らかにするための呪文や願掛けではない」ということです。

ちょっと難しいですが、『仏説無量寿経』というお経に書かれた阿弥陀仏の４８個の誓願のなかから、第17願を見てみましょう。

設我得仏　十方世界　無量諸仏　不悉咨嗟　称我名者　不取正覚

――私（阿弥陀仏）が真の覚りを開いたなら、十方世界のあらゆる仏がたが、こぞって私の名（南無阿弥陀仏）を褒めたたえ、称えるように致します。――

阿弥陀仏の本願（第18願）は、この17願の直後にあり、**「必ずあなたを仏にして救う。あなたを決して一人ぼっちにはしない。」という誓いです。この誓いが、「南無阿弥陀仏」という呼び声となって私に届いたのが、お念仏なのです。**阿弥陀仏の名前であり、呼び声でもある「南無阿弥陀仏」を褒めたたえ、その声を十方世界に響かせようというのが、第17願の本意です。

さて、私たちがお念仏申す時、「南無阿弥陀仏」の声は他の人の耳にも届きます。私たち一人一人は煩悩にまみれた凡夫に過ぎませんが、口から出た「南無阿弥陀仏」は、阿弥陀仏を褒めたたえる声となって響きます。すなわち、第17願のお心にかなう声となるのです。

ですから**お念仏申すことには、私自身のためだけでなく、周囲の人々にも阿弥陀仏の救いが届いていることを伝える役割があるのです。**孤独な人には「決して一人にしないよ」と伝わり、死後の心配をしている人には「必ず阿弥陀仏が浄土へ導いてくださるよ」と伝わっていく…。
その輪が広がった社会は、自分を大切にするだけでなく、お互いのことを思いやり・尊重しあう社会ではないかと思います。
それを親鸞聖人は、「世の中安穏なれ」と表現してくださったのでした。

慧日山 真光寺